

## (B) 歳 入

令和元年度における一般会計歳入決算額は 109,162,375,922 千円  
 であって

歳入予算額	104,651,665,068 千円
当初予算額 予算補正追加額 予算補正修正減少額	101,457,093,570 千円 5,624,281,009 千円 2,429,709,511 千円
に対し	4,510,710,854 千円

の増加となるが、この増加額には前年度剰余金受入が予算額に対して増加した額  
 5,604,121,217 千円  
 が含まれているので、これを差し引くと、純歳入においては  
 1,093,410,363 千円  
 の減少となる。その内訳は

租税及印紙収入における減少	1,738,466,659 千円
官業益金及官業収入における増加	3,500,958 千円
政府資産整理収入における増加	38,196,903 千円
雑収入における増加	1,103,358,541 千円
公債金における減少	500,000,106 千円

である。

なお、歳入予算額の性質(部)別内訳を示せば、次のとおりである。

(単位 千円)

性 質 (部)	当初予算額	補正予算額	計
租 税 及 印 紙 収 入	62,495,000,000	101,000,000 △ 2,416,000,000	60,180,000,000
官業益金及官業収入	47,755,800	—	47,755,800
政府資産整理収入	180,717,480	19,649,847 △ 12,178,828	188,188,499
雑 収 入	5,854,649,694	182,149,474 △ 1,530,683	6,035,268,485
公 債 金	32,660,451,922	4,421,400,000	37,081,851,922
前年度剰余金受入	218,518,674	900,081,688	1,118,600,362
計	101,457,093,570	5,624,281,009 △ 2,429,709,511	104,651,665,068

以下、主な歳入について説明する。

歳入を性質(部)別に区分し、その歳入予算額と歳入決算額とを比較してみると、次のとおりである。

一般会計歳入予算決算額比較表

(単位 千円)

性質(部)	歳入予算額	徴収決定済額	収納済歳入額	不納欠損額	収納未済歳入額	歳入予算額と収納済歳入額との差	歳入予算額に対する収納済歳入額の割合(%)
租税及印紙収入	60,180,000,000	58,441,533,340	58,441,533,340	—	—	△ 1,738,466,659	97
官業益金及官業収入	47,755,800	51,305,428	51,256,758	4,405	44,265	3,500,958	107
政府資産整理収入	188,188,499	226,405,646	226,385,402	—	20,244	38,196,903	120
雑収入	6,035,268,485	7,156,632,215	7,138,627,026	2,560,832	15,444,357	1,103,358,541	118
公債金	37,081,851,922	36,581,851,815	36,581,851,815	—	—	△ 500,000,106	98
前年度剰余金受入	1,118,600,362	6,722,721,579	6,722,721,579	—	—	5,604,121,217	600
計	104,651,665,068	109,180,450,026	109,162,375,922	2,565,237	15,508,867	4,510,710,854	104

また、平成27年度から令和元年度までの各年度における性質(部)別の歳入決算額(収納済歳入額)を示せば、次のとおりである。

(単位 千円)

性質(部)	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
租税及印紙収入	56,285,402,962	55,468,640,078	58,787,489,092	60,356,384,506	58,441,533,340
官業益金及官業収入	45,477,413	47,030,361	50,216,545	50,745,666	51,256,758
政府資産整理収入	348,954,123	384,221,282	278,155,952	268,045,634	226,385,402
雑収入	4,711,518,534	4,894,552,186	5,741,326,827	5,098,397,322	7,138,627,026
公債金	34,918,299,686	38,034,599,744	33,554,599,732	34,395,399,729	36,581,851,815
前年度剰余金受入	5,865,654,402	3,944,983,023	5,232,261,834	5,528,445,263	6,722,721,579
計	102,175,307,122	102,774,026,676	103,644,049,985	105,697,418,124	109,162,375,922

1 租税及印紙収入

一般会計における租税及印紙収入は、「国税収納金整理資金に関する法律」(昭29法36)に基づき、国税収納金整理資金から歳入に組み入れられる租税及び印紙収入(現金納付によるもの)と、「印紙をもつてする歳入金納付に関する法律」(昭23法142)に基づき、日本郵便株式会社から納付される印紙収入(収入印紙の売りさばきによるもの)からなるものであって、同資金及び同社から受け入れた歳入決算額を歳入予算額と比較して示せば、次のとおりである。

租税及印紙収入予算決算額比較表

(単位 千円)

科	目	歳入予算額	徴収決定済額	収納済歳入額	歳入予算額と収納済歳入額との差	歳入予算額に対する収納済歳入額の割合(%)
租	税	59,131,000,000	57,418,322,192	57,418,322,192	△ 1,712,677,807	97
	所得税	19,064,000,000	19,170,688,151	19,170,688,151	106,688,151	100
	源泉所得税	15,740,000,000	15,937,486,857	15,937,486,857	197,486,857	101
	申告所得税	3,324,000,000	3,233,201,293	3,233,201,293	△ 90,798,706	97
	法人税	11,715,000,000	10,797,110,099	10,797,110,099	△ 917,889,900	92
	相続税	2,333,000,000	2,300,473,454	2,300,473,454	△ 32,526,545	98
	消費税	19,062,000,000	18,352,699,200	18,352,699,200	△ 709,300,799	96
	酒税	1,271,000,000	1,247,287,069	1,247,287,069	△ 23,712,930	98
	たばこ税	889,000,000	873,699,482	873,699,482	△ 15,300,517	98
	揮発油税	2,303,000,000	2,280,815,346	2,280,815,346	△ 22,184,653	99
	石油ガス税	7,000,000	6,763,692	6,763,692	△ 236,307	96
	航空機燃料税	52,000,000	50,801,926	50,801,926	△ 1,198,073	97

(単位 千円)

科 目	歳入予算額	徴収決定済額	収納済歳入額	歳入予算額と収納済歳入額との差	歳入予算額に対する収納済歳入額の割合(%)
石油石炭税	707,000,000	638,327,441	638,327,441	△ 68,672,558	90
電源開発促進税	330,000,000	315,848,966	315,848,966	△ 14,151,033	95
自動車重量税	376,000,000	388,058,451	388,058,451	12,058,451	103
国際観光旅客税	50,000,000	44,356,501	44,356,501	△ 5,643,498	88
関税	961,000,000	941,216,239	941,216,239	△ 19,783,760	97
とん税	11,000,000	10,170,443	10,170,443	△ 829,556	92
地価税	—	4,087	4,087	4,087	—
旧税	—	1,637	1,637	1,637	—
印紙収入					
印紙収入	1,049,000,000	1,023,211,147	1,023,211,147	△ 25,788,852	97
収入印紙	708,000,000	647,933,049	647,933,049	△ 60,066,950	91
現金収入	341,000,000	375,278,098	375,278,098	34,278,098	110
計	60,180,000,000	58,441,533,340	58,441,533,340	△ 1,738,466,659	97

上記のうち、主要税目について説明すれば、次のとおりである。

## (1) 所得税

源泉所得税と申告所得税に分けて予算額と決算額とを比較すれば、次のとおりである。

(単位 百万円)

区 分	予算額(A)	決算額(B)	(B) / (A) (%)
源泉所得税	15,740,000	15,937,486	101
申告所得税	3,324,000	3,233,201	97
計	19,064,000	19,170,688	100

## (イ) 源泉所得税

(単位 百万円)

区 分	予算額	決算額	予算額と決算額との差
本年度分税額(A)	18,658,000	18,811,883	153,883
繰越滞納分収入額(B)	21,000	20,801	△ 198
合計収入額(A)+(B)(C)	18,679,000	18,832,684	153,684
還付税額(D)	2,939,000	2,895,197	△ 43,802
差引歳入額(C)-(D)(E)	15,740,000	15,937,486	197,486

源泉所得税は、配当所得に対する課税額が見込みを上回ったこと等から、本年度分税額が予算額に対して1,538億円(0.8%)の増収となったこと等により、決算額は予算額に対して1,974億円(1.2%)の増収となった。

## (ロ) 申告所得税

(単位 百万円)

区 分	予算額	決算額	予算額と決算額との差
本年度分税額(A)	3,462,000	3,362,351	△ 99,648
繰越滞納分収入額(B)	53,000	56,009	3,009
合計収入額(A)+(B)(C)	3,515,000	3,418,361	△ 96,638
還付税額(D)	191,000	185,160	△ 5,839
差引歳入額(C)-(D)(E)	3,324,000	3,233,201	△ 90,798

申告所得税は、給与所得に対する課税額が見込みを下回ったこと等から、本年度分税額が予算額に対して996億円(2.8%)の減収となったこと等により、決算額は予算額に対して907億円

(2.7%)の減収となった。

(2) 法人税

(単位 百万円)

区 分	予 算 額	決 算 額	予算額と決算額との差
本年度分税額 (A)	13,057,000	12,157,010	△ 899,989
繰越滞納分収入額 (B)	50,000	42,148	△ 7,851
合計収入額(A) + (B) (C)	13,107,000	12,199,159	△ 907,840
還付税額 (D)	1,392,000	1,402,049	10,049
差引歳入額(C) - (D) (E)	11,715,000	10,797,110	△ 917,889

法人税は、申告税額が見込みを下回ったこと等から、本年度分税額が予算額に対して8,999億円(6.8%)の減収となったこと等により、決算額は予算額に対して9,178億円(7.8%)の減収となった。

(3) 消費税

(単位 百万円)

区 分	予 算 額	決 算 額	予算額と決算額との差
本年度分税額 (A)	24,371,000	23,574,623	△ 796,376
繰越滞納分収入額 (B)	186,000	191,532	5,532
合計収入額(A) + (B) (C)	24,557,000	23,766,156	△ 790,843
還付税額 (D)	5,495,000	5,413,457	△ 81,542
差引歳入額(C) - (D) (E)	19,062,000	18,352,699	△ 709,300

消費税は、申告税額が見込みを下回ったこと等から本年度分税額が予算額に対して7,963億円(3.2%)の減収となったこと等により、決算額は予算額に対して7,093億円(3.7%)の減収となった。

(4) 酒 税

(単位 百万円)

区 分	予 算 額	決 算 額	予算額と決算額との差
歳 入 額	1,271,000	1,247,287	△ 23,712

酒税は、ビールの課税数量が見込みを下回ったこと等により、決算額は予算額に対して237億円(1.8%)の減収となった。

2 官業益金及官業収入

官業益金及官業収入予算決算額比較表

(単位 千円)

科 目	歳入予算額	徴収決定済額	収納済歳入額	不納欠損額	収納未済歳入額	歳入予算額と収納済歳入額との差	歳入予算額に対する収納済歳入額の割合(%)
官 業 収 入	47,755,800	51,305,428	51,256,758	4,405	44,265	3,500,958	107
病院収入	17,385,686	17,615,773	17,574,603	1,727	39,442	188,917	101
国有林野事業収入	30,370,114	33,689,655	33,682,155	2,677	4,822	3,312,041	110

官業収入が予算額に対して35億円増加したのは、国有林野事業収入において林産物の販売単価が予定を上回ったこと等のためである。

### 3 政府資産整理収入

政府資産整理収入予算決算額比較表

(単位 千円)

科 目	歳入予算額	徴収決定済額	収納済歳入額	不納欠損額	収納未済歳入額	歳入予算額と収納済歳入額との差	歳入予算額に対する収納済歳入額の割合(%)
国有財産処分収入	35,612,998	66,756,524	66,736,282	—	20,241	31,123,284	187
国有財産売払収入	30,897,285	59,962,639	59,942,397	—	20,241	29,045,112	194
特定国有財産売払収入	4,715,713	6,793,885	6,793,885	—	—	2,078,172	144
回収金等収入	152,575,501	159,649,122	159,649,119	—	3	7,073,618	104
特別会計整理収入	82,740,752	82,754,953	82,754,953	—	—	14,201	100
引継債権整理収入	24	—	—	—	—	△ 24	—
貸付金等回収金収入	47,128,340	49,988,901	49,988,898	—	3	2,860,558	106
東日本大震災復興貸付金等回収金収入	216,458	216,458	216,458	—	—	—	100
政府出資回収金収入	22,172,452	23,430,316	23,430,316	—	—	1,257,864	105
東日本大震災復興放射性物質汚染対策緊急除染等事業費回収金収入	259,575	3,022,473	3,022,473	—	—	2,762,898	1,164
事故補償費返還金	57,900	112,068	112,068	—	—	54,168	193
東日本大震災復興事故由来放射性物質汚染対処費回収金収入	—	123,951	123,951	—	—	123,951	—
計	188,188,499	226,405,646	226,385,402	—	20,244	38,196,903	120

上記のうち、主なものについて説明すれば、次のとおりである。

- (1) 国有財産処分収入が予算額に対して 311 億円増加したのは、国有財産売払収入において株式の売払いが予定より多かったこと等のためである。
- (2) 回収金等収入が予算額に対して 70 億円増加したのは、東日本大震災復興放射性物質汚染対策緊急除染等事業費回収金において、「原子力損害の賠償に関する法律」(昭 36 法 147) 第 3 条第 1 項の規定による損害賠償金に係る回収金が予定より多かったこと等のためである。

### 4 雑 収 入

雑収入予算決算額比較表

(単位 千円)

科 目	歳入予算額	徴収決定済額	収納済歳入額	不納欠損額	収納未済歳入額	歳入予算額と収納済歳入額との差	歳入予算額に対する収納済歳入額の割合(%)
国有財産利用収入	123,123,128	138,146,450	137,949,494	44,370	152,585	14,826,366	112
国有財産貸付収入	57,531,839	57,272,202	57,081,387	38,772	152,042	△ 450,451	99
国有財産使用収入	4,509,365	4,559,534	4,559,524	—	9	50,159	101
利 子 収 入	91,255	82,136	76,005	5,597	533	△ 15,249	83
配 当 金 収 入	60,990,669	76,232,577	76,232,577	—	—	15,241,908	124
納 付 金	1,799,407,633	2,533,895,574	2,533,650,334	2,770	242,470	734,242,701	140
法科大学院設置者納付金	49,140	48,860	48,860	—	—	△ 280	99
日本銀行納付金	571,800,000	1,230,507,265	1,230,507,265	—	—	658,707,265	215
独立行政法人造幣局納付金	9,251,080	11,967,882	11,967,882	—	—	2,716,802	129

(単位 千円)

科 目	歳入予算額	徴収決定済額	収納済歳入額	不納欠損額	収納未済歳入額	歳入予算額と収納済歳入額との差	歳入予算額に対する収納済歳入額の割合(%)
独立行政法人日本スポーツ振興センター納付金	5,144,524	5,144,523	5,144,523	—	—	△ 0	99
日本中央競馬会納付金	314,097,358	323,088,669	323,088,669	—	—	8,991,311	102
特定アルコール譲渡者納付金	9,032,230	8,914,793	8,914,793	—	—	△ 117,436	98
特定タンカー所有者納付金	209,993	—	—	—	—	△ 209,993	—
雑 納 付 金	889,788,071	954,183,528	953,938,288	2,770	242,470	64,150,217	107
東日本大震災復興雑納付金	35,237	40,050	40,050	—	—	4,813	113
諸 収 入	4,112,737,724	4,484,590,190	4,467,027,197	2,513,691	15,049,301	354,289,473	108
特別会計受入金	2,229,833,256	2,229,805,220	2,229,805,220	—	—	△ 28,035	99
東日本大震災復興財政投融资特別会計受入金	7,205	7,204	7,204	—	—	△ 0	99
東日本大震災復興食料安定供給特別会計受入金	2,353,662	2,353,661	2,353,661	—	—	△ 0	99
公共事業費負担金	775,327,146	755,158,832	755,158,832	—	—	△ 20,168,313	97
東日本大震災復興公共事業費負担金	12,587	28,453	28,453	—	—	15,866	226
授業料及入学検定料	126,980	110,845	110,845	—	—	△ 16,134	87
許可及手数料	79,494,491	85,855,326	85,849,046	1,493	4,787	6,354,555	107
受託調査試験及役務収入	87,768,647	101,279,507	101,278,352	—	1,154	13,509,705	115
懲罰及没収金	106,958,338	95,170,105	95,170,105	—	—	△ 11,788,232	88
弁償及返納金	601,608,048	917,922,956	904,793,744	2,385,076	10,744,135	303,185,696	150
物品売払収入	6,442,904	5,377,615	5,377,614	—	0	△ 1,065,289	83
電波利用料収入	74,989,656	73,028,607	69,099,869	3,186	3,925,551	△ 5,889,786	92
矯正官署作業収入	3,844,525	3,530,152	3,530,152	—	—	△ 314,372	91
文官恩給費特別会計等負担金	552,052	552,048	552,048	—	—	△ 3	99
附帯工事費負担金	19,435,000	17,408,949	17,226,915	23,904	158,129	△ 2,208,084	88
雑 入	123,983,227	114,531,648	114,234,399	100,030	197,218	△ 9,748,827	92
東日本大震災復興物品売払収入	—	7,099	7,099	—	—	7,099	—
東日本大震災復興弁償及返納金	—	2,212,256	2,193,933	—	18,323	2,193,933	—
貨幣回収準備資金受入	—	80,174,031	80,174,031	—	—	80,174,031	—
特 別 収 入	—	9	9	—	—	9	—
東日本大震災復興雑入	—	75,657	75,657	—	—	75,657	—
計	6,035,268,485	7,156,632,215	7,138,627,026	2,560,832	15,444,357	1,103,358,541	118

上記のうち、主なものについて説明すれば、次のとおりである。

- (1) 国有財産利用収入が予算額に対して148億円増加したのは、配当金収入において1株当たり配当金が予定を上回ったこと等のためである。
- (2) 納付金が予算額に対して7,342億円増加したのは、日本銀行納付金において外国為替相場の変動による為替差損が予定より少なかったこと等のためである。
- (3) 諸収入が予算額に対して3,542億円増加したのは、弁償及返納金において全国健康保険協会保険給付費等補助金の返納金が予定より多かったこと等のためである。

なお、特別会計受入金の内訳は、次のとおりである。

(単位 千円)

科 目	歳入予算額	徴収決定済額	収納済歳入額	歳入予算額と収納済歳入額との差	歳入予算額に対する収納済歳入額の割合(%)
特別会計受入金	2,229,833,256	2,229,805,220	2,229,805,220	△ 28,035	99
外国為替資金特別会計受入金	1,789,283,682	1,789,283,681	1,789,283,681	△ 0	99
財政投融资特別会計受入金	432,139,407	432,132,306	432,132,306	△ 7,100	99
エネルギー対策特別会計受入金	7	7	7	—	100
年金特別会計受入金	33,304	17,035	17,035	△ 16,268	51
食料安定供給特別会計受入金	5,625,445	5,624,230	5,624,230	△ 1,214	99
自動車安全特別会計受入金	2,751,411	2,747,959	2,747,959	△ 3,451	99
東日本大震災復興財政投融资特別会計受入金					
財政投融资特別会計受入金	7,205	7,204	7,204	△ 0	99
東日本大震災復興食料安定供給特別会計受入金					
食料安定供給特別会計受入金	2,353,662	2,353,661	2,353,661	△ 0	99
計	2,232,194,123	2,232,166,087	2,232,166,087	△ 28,035	99

なお、上記のうち、財政投融资特別会計から受け入れた 7,204 千円及び食料安定供給特別会計から受け入れた 2,353,661 千円については、「特別会計に関する法律」(平 19 法 23) 第 227 条の規定により東日本大震災復興特別会計へ繰り入れを行っている。

## 5 公 債 金

公債金予算決算額比較表

(単位 千円)

科 目	歳入予算額	徴収決定済額	収納済歳入額	歳入予算額と収納済歳入額との差	歳入予算額に対する収納済歳入額の割合(%)
公 債 金	9,143,700,000	9,143,699,955	9,143,699,955	△ 44	99
特 例 公 債 金	27,938,151,922	27,438,151,859	27,438,151,859	△ 500,000,062	98
計	37,081,851,922	36,581,851,815	36,581,851,815	△ 500,000,106	98

特例公債金が予算額に対して 5,000 億円減少したのは、特例公債の発行が予定より少なかったためである。

## 6 前年度剰余金受入

前年度剰余金受入予算決算額比較表

(単位 千円)

科 目	歳入予算額	徴収決定済額	収納済歳入額	歳入予算額と収納済歳入額との差	歳入予算額に対する収納済歳入額の割合(%)
前年度剰余金受入	1,116,012,559	6,720,133,776	6,720,133,776	5,604,121,217	602
東日本大震災復興前年度剰余金受入	2,587,803	2,587,803	2,587,803	—	100
計	1,118,600,362	6,722,721,579	6,722,721,579	5,604,121,217	600

前年度剰余金受入が予算額に対して 56,041 億円増加したのは、令和元年度への繰越歳出予算財源等の受入れがあったためである。

なお、歳入予算額は、平成 30 年度の「財政法」(昭 22 法 34)第 41 条の剰余金のうち、歳出予算の財源に充てるための受入額に相当する額であり、収納済歳入額は、平成 30 年度の「財政法」第 41 条の剰余金である。